



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3343 号 2016.11.13 発行

### 措置入院、退院後の支援強化...相模原事件報告案

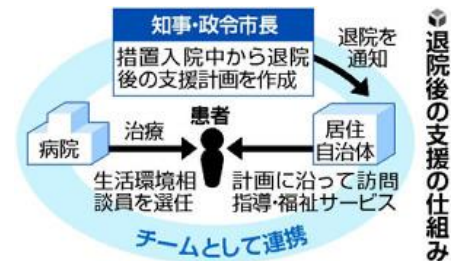
読売新聞 2016年11月12日

神奈川県相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件を検証している厚生労働省などの有識者検討会がまとめた最終報告案が、同省関係者への取材で明らかになった。

犯行を予告し、措置入院となった容疑者が退院後、事件を起こしたとして逮捕されたことから、退院後の支援強化を再発防止策の柱に位置づけた。支援の計画作りや実施は自治体が主体になるなど、自治体や病院の役割を明確化した。報告案は14日に開かれる第8回会合で最終的な議論が行われる。

検討会は今年8月、事件の検証と再発防止策を作る目的で設置され、座長の山本輝之・成城大教授ら有識者9人と同省、警察庁など関係省庁の職員で構成。

翌9月に公表した中間とりまとめでは、入院中や退院後にかけて、相模原市と、同市内の北里大学東病院の支援や治療が「不十分だった」と指摘した。



### 相模原 殺傷事件の施設建て替え 知事が財政支援要請 NHK ニュース 2016年11月11日

相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件を受けて、神奈川県黒岩知事が塩崎厚生労働大臣と会談し、4年後を目指して建て替えを進める施設の整備費用に対する財政支援を求めました。

ことし7月、相模原市緑区の知的障害者の入所施設「津久井やまゆり園」で入所者が刃物で刺され、19人が死亡、27人が重軽傷を負った事件で、施設の設置者である神奈川県は、4年後の平成32年度中の完成を目指して施設を建て替えることを決めています。

こうした中、神奈川県黒岩知事が11日午後、厚生労働省を訪れ、塩崎厚生労働大臣と会談しました。この中で黒岩知事は、現場の建物をそのまま使った場合には、利用者や職員が事件の記憶にとらわれてしまうなどとして、建て替えの必要性を伝え、60億円から80億円とされている整備費用に対する財政支援を求めました。これに対して塩崎大臣は「現在の制度では国が補助する仕組みはないが、重大な事件なので、要望はしっかりと受け止めたい」と述べました。会談のあと、黒岩知事は記者団に対し「県と一緒に施設の再生に向けて取り組むことを理解してもらえたと思う」と述べました。

### 入所の障害者1万人減目標 厚労省、地域生活に移行 共同通信 2016年11月12日

厚生労働省は11日、入所施設で集団生活をする障害者約13万人のうち、9%以上に当たる1万人強が2017年度から4年間で施設を退所し、自宅やグループホームなど地域での暮らしに移れるようにするとの目標を定めた。同日開かれた社会保障審議会の部会に示した。

障害者の入所施設では今年7月、相模原市で19人が殺害される事件が発生。障害者団体からは地域移行を進めれば障害者への理解が深まり、同種の事件の再発防止にもつながるとの指摘がある。障害福祉では、各自治体が3年ごとに実施計画をつくっており、今回の目標は次回の計画策定に向けた厚労省の基本指針に盛り込む。

厚労省はこれまでも地域生活への移行を進めており、前回の目標では14～17年度に入所者12%が退所できるようにすると定めていたが、達成は厳しい状況。入所者の高齢化と重度化が進んでいることが主な原因で、グループホームの整備などで9%以上の達成を目指す。このほか、障害のある子供をサポートする児童発達支援センターを20年度末までに全市町村に1カ所以上設置するとした。

## 東京) 相模原事件、忘れない 吉祥寺で13日に街頭行動 市川美亜子

朝日新聞 2016年11月13日

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が犠牲になった事件から100日あまり。障害のある人たちや、その支援者らが13日、武蔵野市の吉祥寺駅周辺で街頭に立ち、思いを訴える行動を起こす。「忘却と風化こそが最も恐ろしい」。その思いを込めて、今後も行動を続けていくつもりだという。

街頭行動は「Remember (リメンバー) 7・26 Tokyo (トーキョー) Action (アクション)」。呼びかけ人のひとりで、NPO法人「てんぐるま」の田崎光哉さん(48)は、事件から1カ月後の8月から神戸市で毎月続く街頭行動に触発され、「東京でも立ち上がらなければ」と考えた。「一人ひとりが生きてきたあかしが忘れられ、異常な人が起こした事件だと片付けられていくのが恐ろしい」

SNSで呼びかけると、八王子や横浜など各地の障害者や支援者たちから、次々に参加したいと申し出があった。

## 【相模原19人刺殺】措置入院患者全員対象に都道府県知事ら支援計画策定へ 再発防止に厚労省有識者チームが検討

産経新聞 2016年11月12日

相模原市の障害者施設殺傷事件に関する厚生労働省の有識者検討チームが、措置入院した患者全員を対象に、都道府県知事や政令市長が支援計画を策定するなどの再発防止策を検討していることが12日、分かった。14日に開かれる第8回会合で最終報告のたたき台として提示し、早ければ月内にも取りまとめる。

逮捕された植松聖容疑者(26)は事件前の2月、障害者殺害を示唆する言動を繰り返し、「大麻精神障害」などと診断され措置入院となった。植松容疑者は3月に退院したが、相模原市や病院が退院後の住所を把握しておらず、検討チームは中間報告で「支援が十分でなかった」と指摘した。

関係者によると、検討チームはこうした問題点を踏まえ、自治体や病院の役割を明確化し、措置入院となった患者が全国どこでも十分な支援を受けられる制度づくりを提言する。

## 車いすの委員 階段しかなく審議会出席できず 厚労省が謝罪

NHK ニュース 2016年11月12日

11日に都内でおこなわれた障害者施策を議論する厚生労働省の審議会の会場が、建物の中2階だったのに階段しかなかったため、車いすの委員が出席できなかったことがわかりました。厚生労働省は会場の確認が不十分だったとして、この委員に謝罪しました。

11日、東京・千代田区で開かれた障害者施策を議論する厚生労働省の審議会は、会場が建物の中2階だったのに階段しかなく、バリアフリーには対応していなかったということです。

このため、車いすの男性委員は建物の前まで来たものの、会場に上がることができず、出席を断念したということです。

これについて厚生労働省は「障害者施策を議論する場なのに、会場を選ぶ際に下見をしなかった。配慮に欠けていたことは誠に申し訳なく、男性委員に謝罪した。今後は会場を事前に下見するなど適切に対応していきたい」と話しています。

### 「ヒトラーの生まれ変わりや」「死んでしまえ」と障害者施設に電話 威力業務妨害容疑で31歳男逮捕

産経新聞 2016年11月11日

岡山県警は11日、障害者支援施設に「障害者なんて死んでしまえ」と電話をかけたとして、威力業務妨害の疑いで、岡山県奈義町、自称無職、奥健輔容疑者（31）を逮捕した。逮捕容疑は10日午後8時10分ごろ、自分の携帯電話で、同県津山市の障害者支援施設に「わしはヒトラーの生まれ変わりじゃ。障害者なんて死んでしまえばえんじゃ」などと電話し、施設の職員に警戒対応に当たらせ、業務を妨害した疑い。

県警によると、奥容疑者は、相模原市の障害者施設殺傷事件を引き合いに出し「ヒトラーの話は事件をニュースで見て思いついた」と供述し、容疑を認めている。

### 兵庫) 7分に込める障害者の思い 西脇北高・藤原さん 広川始

朝日新聞 2016年11月12日

#### 体験発表の全国大会に出場する西脇北高の藤原すみれさん＝西脇市

定時制や通信制の高校で学ぶ生徒の体験発表で、西脇市の県立西脇北高校3年、藤原すみれさん（17）が、20日に東京で開かれる全国大会に出場する。藤原さんは障害者で、車いすに乗っている。「誰もが過ごしやすい社会に」と題し、夢に向かって自分らしく突き進む気持ちを伝える。藤原さんは高校生になって、アルバイト先を探したことがある。しかし、「すぐに辞めるかもしれないので紹介できない」と言われ、門前払い同然だった。失意の日々が続いた。

一方、ボランティアの世界は違った。被災地支援の街頭募金で、「頑張ってるね」「いつも見とるで」と声をかけられ、自然と声が大きくなり、笑顔になっている自分に気付いた。



### カンボジアへ中古シューズ寄贈 栄光スポーツが障害者陸連に

山陽新聞 2016年11月11日

#### カンボジア障害者陸連に中古シューズを贈った三宅社長（左）

スポーツ用品販売の栄光スポーツ（岡山市北区大供）は11日、顧客から募った中古のランニングシューズ約160足を、カンボジア障害者陸上競技連盟に贈った。

同社のランニング用品専門店（同絵図町）で贈呈式があり、三宅直子社長が、おかやまマラソンに出場するカンボジアの障害者ランナー2人にシューズを手渡した。



同国でボランティア活動を行うハート・オブ・ゴールドを通じて同連盟に届ける。

ボン・ホンさんは「カンボジアの多くのランナーを応援してくれて感謝します」とお礼を述べた。

### 溶け合う芸術 キックオフイベント前夜祭

大分合同新聞 2016年11月12日

振付家の穴井豪さん（左端）と和洋の舞踊家が共演した幻想的なステージ＝11日、大分市のいいちこ音の泉ホール



2年後に大分が舞台となる「第33回国民文化祭」と「第18回全国障害者芸術・文化祭」のキックオフイベントが12日、大分市中心部で開かれる。11日は市内のいいちこ音の泉ホールで前夜祭があり、約500人が参加。多種多様な芸術文化が融合する本番に向けた方向性を示した。



国民文化祭オープニングステージの脚本を担当する芥川賞作家の小野正嗣さん（佐伯市蒲江出身）は、県内を訪ね歩く中で感じた大分の豊かな文化風土について講演した。「多様性があり、外部に知的好奇心を向ける柔軟性がある」と特徴を語り、「国民文化祭では芸術文化を通じて多くの人々と楽しく交流し、自分の中にある他者を発見してほしい」と訴えかけた。同じくオープニングステージの舞台演出を手掛ける振付家の穴井豪さん（大分市出身）は、和洋の幻想的なステージを披露。県日本舞踊連盟とおおいた洋舞連盟のメンバーが共演し、来場者を魅了した。

国民文化祭のPR動画も公開し、2018年10月6日から11月25日まで開かれる本番への機運を盛り上げた。12日のキックオフイベントでは午前11時から午後2時まで、市内の県立美術館といいちこ総合文化センター前の国道197号を歩行者天国にし、記念セレモニーやワークショップなどを展開する。

#### 障害者と小麦栽培 和光のNPOが休耕地活用

東京新聞 2016年11月13日

小麦の種を畑にまく加藤さん（左）ら＝和光市で



食文化の継承を図るNPO法人「和光市食文化研究会」と同市の障害者就労支援施設「すまいる工房」の利用者らが、市内の休耕地を活用して小麦の栽培に取り組んでいる。障害者が農業分野で働く「農福連携」の一環だ。今年収穫した小麦は揚げパンなどに加工し、近く市内の2カ所で開かれるイベントで販売する。関係者は「地元産の小麦粉で作った揚げたてのパンを味わって」と来場を呼び掛けている。（服部展和）

和光市新倉の畑で9日、来年に向けた小麦の種まきが行われた。研究会の会員、すまいる工房利用者のほか、活動を支援する地元の農家、不動産会社の社員ら約二十人が参加。種まき機を転がしながら畑を横断し、約二千五百平方メートルにくまなく種をまいた。研究会代表理事の加藤洋子さん（72）は「七カ月後の収穫が楽しみ」と笑顔を見せた。

加藤さんら地元有志が結成した研究会は、長年にわたって伝統食の継承や食育の推進などに取り組んできた。五年前、すまいる工房に呼び掛け、農福連携の活動を始めた。加藤さんは「うどん作りの講習会で、生き生きとした障害者の人たちと出会ったのがきっかけだった」と振り返る。

小麦を栽培する畑は、かつては雑草が生い茂る休耕地だった。会員らが草や石を取り除き、畑として復活させた。小麦の栽培は十一月に種をまき、成長途中で麦踏みや草取りなどを繰り返し、六月に収穫する。すまいる工房の利用者約四十人のうち、約二十人が交代で作業に参加している。

三年前からは小麦の品種を国産の「春よ恋」に一本化。収穫量は年々増え、今年は約八百キロに上った。収穫した小麦を使い、パン作りなどの講習会も開いている。すまいる工房の職業指導員竹花浩輔さん（27）は「いずれはこの小麦を使い、利用者がパンを作っ

て販売する態勢を整えられれば」と語る。

研究会では昨年初めて「和光市民まつり」と「ゆめあい和光まつり」の会場で、この小麦を使った揚げパンなどを販売し、人気を集めた。今年は初めて天日干しにした小麦を使うことにしており、加藤さんは「おいしさはさらにアップするはず」と自信をのぞかせる。

研究会は、十三日に和光市役所周辺で開かれる「和光市民まつり」で揚げパン（一個百円）などを、二十六日に市総合福祉会館で開かれる「ゆめあい和光まつり」で揚げパンや和風味のオリジナル麺「三麺」（一杯三百円）などを販売する。

## 統合失調症、新薬の手掛かり＝患者 i P S で異常発見－理研など

時事通信 2016年11月12日

統合失調症患者の人工多能性幹細胞（i P S 細胞）を作り、脳の神経系統の細胞に変える実験を行ったところ、神経細胞の割合が健康な人より少なく、神経細胞を助ける細胞の一種「アストロサイト」の割合が多かったと、理化学研究所などの国際研究チームが12日までに発表した。死亡した患者の脳でも、同様の異常が確認された。胎児から誕生後の脳が発達する時期に障害が起きているとみられ、新薬を開発する手掛かりになる。論文は英医学誌トランスレーショナル・サイカイアトリー電子版に掲載された。

i P S 細胞を作ったのは、22番染色体の一部に異常があるタイプの患者。神経細胞とアストロサイトの割合が決まる過程には「p38α」と呼ばれるたんぱく質が関与していることが分かった。脳神経の発達障害を改善する薬を開発できる可能性があるという。

## 心の病 診療や相談 来春2施設開設へ

読売新聞 2016年11月12日

### ◆鈴鹿医療科学大

鈴鹿医療科学大学（鈴鹿市）は11日、千代崎キャンパスに来春、うつなどの診療や相談に対応する「こころのクリニック」と「こころの相談センター」を開設すると発表した。2018年4月には国家資格の公認心理師を目指す人材を養成する大学院を開校する。

うつや不登校など心の問題が深刻化する中、心のケアにあたる心理職が公認心理師として国家資格化されるのを受け、開設を決めた。2施設はうつや発達障害などの診療、相談に対応するほか、公認心理師の資格取得に向けた学生らの実習施設として活用する。

同クリニックは来年5月1日に開院を予定、同大医療福祉学科の大谷正人教授が院長を務める。同相談センターは同4月3日に開設予定で、臨床心理士7人を置く。豊田長康学長は記者会見で「心の病は増えており、市民の悩みや相談に応えていきたい」と述べた。

## 千代田区とセブンイレブンが「子育て見守り隊」協定 産経新聞 2016年11月13日

千代田区は「子育て応援見守り隊」に関する協定をコンビニエンスストア最大手「セブンイレブン・ジャパン」（同区二番町）と締結した。店舗を子供が犯罪に巻き込まれた際の避難場所とするほか宅配時に店員が家庭状況に注意するなどして子育て中の親の孤立や虐待の兆しを早期に把握し、防止に役立つ。

区によるとセブンイレブンの特定の事業所（店舗）と同様の協定を結ぶ自治体はあるが、大規模な展開は珍しいという。

協定では、店舗側は子供が助けを求めてきた場合は保護し、状況に応じて警察、自宅と学校へ連絡する▽店頭やお届サービスを通じ子供や家族に異変を感じた場合、児童・家庭支援センターに通知。緊急の場合は警察や東京都児童相談センターへ連絡する▽児童虐待の予防啓発チラシやポスターを掲示・配布する一ことを取り決めた。区側はセブンイレブンから連絡を受けた場合、保有情報と照会し速やかに状況の把握と支援活動を実施する。

千代田区は、児童虐待通告や子育て相談が直近の5年度で2倍以上に増加。新しく転入

し地域とのつながりが希薄な核家族に多く発生していることから、コンビニの協力が必要とした。石川雅己区長は「子育て家族の孤立や虐待の状況などは区の事業だけで把握するのは難しい。協定を通じてご協力いただけることに深く感謝する」としている。

### 障害、差別しない心を 横手市の家族描いた絵本、13日朗読

秋田魁新報 2016年11月12日

障害のある娘と家族の日々の生活を描いた絵本「なっちゃん」を手にする真理さん 5歳で交通事故に遭い、寝たきり状態になった娘を30年以上支え続けている家族が横手市にいる。13日に秋田市で開かれる障害者と健常者の交流イベント「であいのこんさあと」で、27年前にその家族を描いた絵本が朗読される。7月には相模原市の障害者施設で入所者が犠牲になる殺傷事件が発生しており、実行委員会は「同じような事件を起こさないためにも障害者を差別しない心を培い、人は対等であることを訴えたい。朗読を聞き、命の尊さを感じ取ってほしい」と話している。



絵本のタイトルは「なっちゃん」(女子パウロ会、1989年刊行、現在絶版)。78年12月に自宅近くの道路で車にはねられ、体と脳に重い障害が残った小笠原菜摘子(なつこ)さん(43)と両親ら7人の事故後の生活が、弟の大輔さん(42)の視点でつづられている。

大輔さんが小学6年時に書いた作文を、ほぼ原文のまま掲載。後遺症による発作などに苦しむ菜摘子さんを家族で支える様子が描かれている。

「であいのこんさあと」は13日午後1時から、秋田市の県児童会館で開かれる。県内のコーラスグループやバリトン歌手による歌、障害児によるピアノの演奏が披露されるほか、相模原市の障害者施設殺傷事件について、障害者とその支援者ら6人が思いや意見を述べ合う場も設ける。入場料は大人300円、中学生以下250円。



### 重症児医療の実情を一冊に 旭川の北海道療育園岡田喜篤理事長

北海道新聞 2016年11月11日

「重症心身障害児(者)医療福祉の誕生」を出した岡田さん。「これからも重症児医療福祉の発展に力を注いでいく」

【旭川】重症心身障害児(者)施設「北海道療育園」(旭川市春光台4の10)の岡田喜篤(きとく)理事長(81)が、重症児医療福祉の歴史をまとめた「重症心身障害児(者)医療福祉の誕生」を出した。この分野は専門医に向けた書籍が多いが、重症児の存在を広く知ってもらおうと、一般の人にもわかる平易な文章で著した。

重症児は、重度の知的障害と肢体不自由をあわせもつ子供を指す日本独自の概念だが、岡田さんは「弱者への社会保障が確立されない中で先駆者が戦い続けた歴史がある」とし、重症児医療の現場で50年以上を過ごした者として、その足跡をしるしたという。

本は全10章で構成。重症児の概念が誕生した経緯や、重症児医療福祉の先駆者である小林提樹(ていじゅ)医師(故人)など関係者を紹介。重症児のケアや教育への課題や、これからの国の福祉体制への期待をまとめた。

岡田さんは静岡県出身。名古屋大医学部を卒業後、全国の重症児施設での勤務を経て、2013年から同園の理事長に就任、論文発表や講演を続けている。緑内障で左目を失明、右目も0.03ほどの視力しかないが、共著者で同園法人事務局総務部の蒔田明嗣(あきつぐ)主幹に論文の取りまとめや口述筆記を頼み、完成させた。

岡田さんは「戦後の復興期、重症児は激しい差別の対象とされていた。現代も世間の偏見は変わらない」と指摘。出版作業を終え「重症児医療福祉の歴史を広く知ってもらい、誰もがともに生きることを認め合う社会の大切さを伝えていきたい」と話している。

A5判全230ページ。3024円。旭川などの主要な書店で販売している。問い合わせは出版元の医歯薬出版（東京）（電）03・5395・7616へ。（川上舞）

### 【主張】いじめ調査 日々の指導から見直そう

産経新聞 2016年11月12日

全国の小中高校で把握された、いじめが文部科学省の調査で過去最多となった。被害者の立場でいじめを広く捉えるようになった表れともいえるが、深刻な事件が絶えないのは大きな気がかりだ。いじめはどこにでもあるとの認識を新たに、日頃の指導から見直してもらいたい。

平成27年度は小学校で15万件を超えるなど約22万5千件に上る。前年度より2割増えた要因は、いじめ防止対策推進法が25年に施行され、文科省がいじめ認知を肯定的に評価する方針を明確にしたことが挙げられる。

学校や教育委員会には、いじめを隠す傾向がある。担任は問題を一人で抱えがちだ。この悪弊を絶つため、教師の失点として非難するより、把握と情報共有を促し、解決につなげることが大切だ。

いじめの内容は「冷やかしや悪口」が6割を占める。教委によって認知件数に大きな差もある。ささいなことだと見逃しているケースは、まだあるのではないか。

今年8月、いじめを苦に自殺した青森市立中2年の女子生徒の父親は、先日、東京都内のシンポジウムで学校側に相談しながら「よくあるトラブル」として聞き流されていたと明かした。

東京電力福島第1原発事故で福島県から横浜市に自主避難した中学1年の男子生徒が不登校になっている問題では、転校当時、小学校でいじめの相談を受けたが適切に対応しなかった。市の第三者委員会は「教育の放棄に等しい」と厳しく批判した。学校への不信には拭いがたいものもある。

冷やかしや無視といった日々の教室の問題に、教師は毅然（きぜん）と対応すべきだ。毎日の指導を通し、正義や思いやりを教えてほしい。

ネット上の交流は把握しにくい。思春期の子供たちは深刻な悩みがあっても隠そうとする。気軽に話す関係がなければ悩みを打ち明けられない。子供と顔を合わせる時間が多い親と教師は、変化にいち早く気づき、連携して支えていく責任が大きい。

小学生の暴力行為が増え、暴力の低年齢化が統計に表れているのも見過ごせない。

しかられた経験のない子はささいなことで暴力に走る例も指摘される。少子化で兄弟姉妹も少ない。異年齢で交流する機会など地域をあげた取り組みも積極的に行うべきだ。

### 社説 さよなら「価格競争」経営 週のはじめに考える 中日新聞 2016年11月13日

デフレが勢いを増しています。消費者には値段が下がるのはもちろん助かります。でも価格競争は結局、誰かの犠牲のうえに成り立っているのです。

「乾いたタオルをさらに絞るようにして価格を下げています。利益を出すため従業員を削るだけ削り、長時間労働でしのいでいる」

「今年は何とか受注できても来年はライバルがもっと値を下げてくるだろう。天秤（てんびん）にかけられる見積もり競争は無間地獄のようだ」

価格競争が激しさを増す外食やサービス産業で、また日本企業の大半を占める中小企業で痛切な叫びが聞かれます。

#### 8割以上が消耗戦に

それもそのはずです。「人を大切にする経営学会」（代表・坂本光司法政大大学院教授）が一月に全国の中小企業千社にアンケートした結果、八割以上が「価格が競争力の源泉」と答えた。つまり値下げ競争に活路を求めている。「しかし常に他社の動向に神経をとがらせ、悩み苦しむ。そんな日本企業に明日はありません」。価格競争との決別を近著で訴えた

坂本教授は、そう指摘します。

なぜか。日本の人件費は上海やバンコクなどアジア勢の約十倍（日本貿易振興機構調べ）と埋めがたい劣勢にある。さらにアジア勢の技術や開発力の伸びは著しい。テレビやパソコンが席卷されたように、従来の経営では対抗できないのが現状です。

それでも価格競争に走る。その先に何があるのでしょうか。

価格競争力を高めるために「社員は少なく、給料は安く」といったリストラが横行、非正規社員を増やす経営に頼ることにもなる。

誰でも名前を知っている大手上場企業が日常的に行っているのは「いかに安く仕入れるか」。多くの中小企業を天秤にかけ、引き下げ競争を強いる。価格競争型経営は社員や取引先、時に消費者をも巻き込み、誰かを犠牲や不幸にしてしまうのです。

### 徹底的にこだわりを

ではどうしたら良いか。例えば自社しかできない価値ある商品を提供する「オンリーワン経営」や、顧客のあらゆるニーズをすくい取る「こだわり経営」。もちろん品質を極め、他を寄せ付けない「ナンバーワン経営」もある。

東京・鷺ノ宮にある美容室「トランスフォーム」は洗髪に使う水からこだわり、パーマ剤類はすべてオーガニック製品に替え、安心・安全を売り物にしている。顧客の平均単価は一万四千元。近隣の相場といわれる七千円の二倍も高く、安売り店が増える中では時代に逆行するようなやり方でした。

それでも予約が取りにくい人気に。富裕層相手というぜいたくさではなく、ここでしか味わえない安心感や心地よさからです。経営する酒巻大智さん（43）は、業界で働き始めた頃の頃、原因不明のせきや胸の痛みに悩まされた経験がありました。

「自分が不安に思う環境をお客さまに強いたくなかった。紆余（うよ）曲折はあったが決断してからすべてがうまく回った」。顧客の満足度が高まり、経営も安定した。低賃金・長時間労働で美容師離れが悩みの業界にあって、従業員の労働条件も改善できたといいます。

もう一つ、例を挙げましょう。静岡市に本社がある「サンファーマーズ」が手がけるブランド品「アメラ」。高糖度トマトの代名詞といわれ、百貨店や飲食店で引っ張りだこです。一般的なトマトの二倍の甘さ。一個一個の糖度保証をはじめ、形や大きさ、キズの有無といった品質管理を徹底して「食べた人に感動を与えること間違いなし」との評価を確立した。

何よりすごいのは、この安定した高品質品を年間を通じ途切れることなく供給する効率生産です。当時、種苗会社を経営していた稲吉正博社長（63）は、県農業試験場の職員らの協力を得ながら栽培技術を確立し、不況や需要先細りをも恐れないブランド品を築き上げました。

アメラの成功は、一人で悩むのではなく専門家や行政に助言を求めることも一つの手段と教えてくれます。

### 健全な経済築くには

所得がなかなか増えない中で安売りが助かると思うのは消費者の普通感覚かもしれませんが、でも、だからといって経営者が価格競争ばかりに向かうのは、やはり間違っている。

日本企業は約七割が赤字です。赤字企業は法人税を納めず、それは税収を大きく落ち込ませているのです。良い物をつくり、適正な価格で利益を上げ、税も納め、従業員に十分な賃金を払う。税収が増えれば値上げの痛みを和らげる使い方もできるはずです。

健全な経済を築いていくのは、もちろん健全な経営の集積なのではないでしょうか。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

